第1回資料

**茶文箇所：　規則文**

**青字箇所：　解説・説明文**

**赤字箇所：　強調部分**

**走者の帰塁**

ﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞの際の走者の帰塁に関する処置

　ﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞとなった原因(A～C)によって、帰塁の規準が異なる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| A | 投手の投球当時に占有していた塁に帰らせる場合 | 7種類 |
| B | 妨害発生の瞬間既に占有していた塁に帰らせる場合 | 7種類 |
| C | ﾍﾞｰｽｺｰﾁによる妨害（送球当時に既に占有していた塁に帰らせる場合） | 送球の誘致/妨害 |

(A)投手の**投球当時に占有していた塁**に帰らせる場合。

(a)ﾌｧｳﾙﾎﾞｰﾙが捕球されなかった場合 (5.09e ﾌｧｳﾙﾎﾞｰﾙ)

(b)打者が反則打球した場合 (5.09d 反則打球, 6.06a ﾊﾞｯﾀｰｽﾎﾞｯｸｽの外に足を出して打つ)

(c)投球が正規に位置している打者の身体又はﾕﾆﾌｫｰﾑに触れた場合

(5.09a 打者に投球が当たる、6.05f　2S後空振りして体にﾎﾞｰﾙが当たる)

　 a~cは問題ないですね。

(d)無死/1死、走者1塁、1･2塁、1･3塁又は満塁で、内野手がﾌｪｱ飛球/ﾗｲﾅｰを故意に落とした場合

(6.05l故意落球)

　 つまり、内野ｺﾞﾛでﾀﾞﾌﾞﾙﾌﾟﾚｲが想定される場面での故意落球です。

　　普通に捕れる飛球/ﾗｲﾅｰをｸﾞﾗﾌﾞに当てて落とした場合であり、身体に当てて落とした場合はｲﾝﾌﾟﾚｲですので留意してください。

(e)打球を守備しようとする野手を妨げた場合

1.ﾌｪｱ打球を、野手（投手を含む）に触れる前に打者走者に触れた

(6.05g ﾌｪｱﾎﾞｰﾙが内野手に触れる前に打者走者に触れる)

2.ﾌｪｱ打球を、内野手（投手を含む）に触れる前に、又は内野手（投手を含む）を通過する前に、ﾌｪｱ地域で走者又は審判員に触れた

(5.09f打球に走者（審判）が触れる、 6.08d ﾌｪｱﾎﾞｰﾙが、ﾌｪｱ地域で審判員又は走者に触れる、

7.08f打球に走者が触れる、7.09k打球に走者が触れる)

走者による守備妨害の場面です。 1,2 は問題ないですよね。

3.打者が打つかバントしたﾌｪｱﾎﾞｰﾙの打球に、ﾌｪｱ地域内でﾊﾞｯﾄが再び当たった

(6.05h打者ｱｳﾄの項)

　　これも問題ないですね。ただし、ﾊﾞｯﾀｰﾎﾞｯｸｽ内で当たった場合はﾌｧｳﾙですので留意してください。

4.打者又は走者が打球を処理しようとする野手の守備を妨害した

(7.08b走者のｲﾝﾀｰﾌｪｱ, 7.09f併殺を妨害するために走者が打球を行為に妨げる、

g併殺を妨害するために打者走者が打球を故意に妨げる、j走者が打球処理中の野手を妨害)

5.打者又は走者が、まだﾌｧｳﾙと決まらない段階で打球の進路を故意に狂わせた

(6.05i　打者がﾌｧｳﾙﾎﾞｰﾙの進路を故意に変える、

7.09b　打者又は走者がﾌｧｳﾙﾎﾞｰﾙの進路を故意に狂わせる)

6.攻撃側ﾌﾟﾚｲﾔｰ又はﾍﾞｰｽｺｰﾁが、必要に応じて自己の占めている場所を譲らないで、打球を処理しようとしている野手を妨げて、守備妨害が宣告された

(6.05o　走者以外の選手が打球の守備妨害、7.11　守備側の権利優先)

　　1,2,4,6は守備妨害の場面です。 2の審判員による妨害では、打者に1個の塁を与え、押出される場合は走者にも次塁を与えます。　これはもうご存知ですよね？

　　1,2 のケースでは、打者には何と「**ヒット**」が記録されます！

(f)打者走者の1塁走塁時のﾗｲﾝｵｰﾊﾞｰ

打者走者が本塁から1塁へ走る際に、1塁への送球を受ける野手の動作を妨げた場合。

(2.44、6.05k ｽﾘｰﾌｯﾄﾚｰﾝ外を走り守備を妨害する)

勿論打者走者はｱｳﾄになります。

(g)打者走者が捕手を守備妨害

　3Sの宣告を受けただけでまだｱｳﾄになっていない打者走者又は四球の宣告を受けた打者走者が、捕手の守備を明らかに妨げた場合。

(7.09a 打者走者による妨害)

　　上記と同じ守備妨害の場面ですが、**ひっかけ問題になり易い**箇所です！

　　　・第3ストライクが宣告されただけ - - -「振り逃げ」の可能性がある場合を意味しています。

・第3ストライクが宣告された**打者がｱｳﾄになった後**に妨害が発生した場合、打者は3振でｱｳﾄは当然で、罰則の対象が走者になります。さらに、どの走者に対して守備が行われていたかが明らかでない場合は、本塁に最も近い走者がｱｳﾄになります。

この両者の違いに留意してください。

(B)**妨害発生の瞬間すでに占有していた塁**に帰らせる場合。

(a)投手の打者への投球に始まった守備を妨げた場合。

1.球審が捕手の送球動作を妨げた場合 (5.09b 球審による捕手への妨害)

2.打者が捕手の送球動作を妨げた場合 (6.06c 打者が本塁で捕手の守備妨害)

　1,2いずれも走者がｱｳﾄになった場合は、妨害はなかったものとして処理される。

3.無死又は1死で走者が得点しようとしたとき、打者が本塁における守備側のﾌﾟﾚｲを妨げた場合。

(7.08g 走者が得点しようとした時、打者が守備妨害、7.09c　ﾎｰﾑｽﾁｰﾙ時、打者が野手を妨害)

**3走がｱｳﾄ**となり、打者はｱｳﾄにならない。（2死の場合は打者がｱｳﾄになる）他の走者は妨害発生時の占有塁に戻す。

**ひっかけ問題になり易い**箇所です！

無死又は1死走者3塁で、打者がｽｸｲｽﾞした後に捕手の守備を妨害した場合、打者は打者走者となっていることから、妨害行為によるﾍﾟﾅﾙﾃｨで**打者走者がｱｳﾄ**になり、他の走者は投球当時の占有塁に戻す。　- - - 　打者と打者走者の違いについては、(A)(g)を参照のこと。

4.打者が空振りし、ｽｲﾝｸﾞの余勢で、その所持するﾊﾞｯﾄが、捕手又は投球に当たり審判員が故意ではないと判断した場合は、打者の妨害とはしないが、ﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞとして走者の進塁を許さない。

(6.06c 打者が本塁で捕手の守備妨害)

ｽｲﾝｸﾞの**余勢**で接触した場合は、守備妨害とせず単にﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞとし、走者の進塁は認めない。

ｽｲﾝｸﾞの**振戻し**で接触した場合は、守備妨害で打者はｱｳﾄ、走者を妨害発生時の占有塁に戻す。

(b)打撃妨害

　　捕手又はその他の野手が打者の打撃を妨害した場合 (6.08c 打撃妨害)

(c)走者が故意に送球を妨げた場合 (7.08b 走者のｲﾝﾀｰﾌｪｱ)

(d)守備側の権利を優先しなかった場合

攻撃側ﾁｰﾑのﾌﾟﾚｲﾔｰ又はｺｰﾁが必要に応じて自己の占めている場所を譲らないで送球を処理しようとしている野手を妨げたために守備妨害でｱｳﾄを宣告された場合。

(7.08l 走者以外の攻撃側ﾒﾝﾊﾞｰによる守備妨害、7.11　守備側の権利優先)

(e)走者がﾎﾞｰﾙをわざと蹴る

内野手が守備する機会を失った打球（内野手に触れたかどうかを問わない）を走者が故意に蹴ったと審判員が認めた場合。: ﾎﾞｰﾙを蹴ったときが基準となる。

(7.09k 打球に走者が触れる)

(f)ｱｳﾄを宣告されたばかりの打者又は走者が野手の次の行為を妨げた場合: 次の行為に移ろうとしたときが基準となる

(7.09e ｱｳﾄになったばかりの打者による妨害)

(g)攻撃側ﾒﾝﾊﾞｰによる妨害

　　1人又は2人以上の攻撃側ﾒﾝﾊﾞｰが走者が達しようとする塁に接近して立つか、あるいはその塁の付近に集合して守備を妨害するか、惑乱させるかことさらに守備を困難にした場合 : その守備が起ころうとしたときが基準となる。

(7.09d 攻撃側ﾒﾝﾊﾞｰによる妨害)

**(C)ﾍﾞｰｽｺｰﾁによる妨害（送球当時に既に占有していた塁に帰らせる場合）**

　走者3塁のときﾍﾞｰｽｺｰﾁがﾎﾞｯｸｽを離れて何らかの動作で野手の送球を誘致した場合、又は意図的に送球を妨げた場合（5.08、7.09i）には、その送球がなされたときにすでに占有していた塁に帰らせる。

　5.08: 送球がﾍﾞｰｽｺｰﾁや審判員に触れたときもｲﾝﾌﾟﾚｲ

送球が偶然ﾍﾞｰｽｺｰﾁに触れたり、投球または送球が審判員に触れたりした時はｲﾝﾌﾟﾚｲです。

しかし、ﾍﾞｰｽｺｰﾁが故意に送球を妨害した場合には、ﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞとなり3走はｱｳﾄになります。

　7.09i: ﾍﾞｰｽｺｰﾁの紛らわしい行動

　 走者3塁のときﾍﾞｰｽｺｰﾁが自己のﾎﾞｯｸｽを離れて何らかの動作で野手の送球を誘致した場合。

　　　　動作と記載されています・・・声で叫んで誘致してもいいのか？（ﾏﾅｰとしては問題ありです）

引用：2015野球規則、競技者必携より

**「投球当時」に関する解釈**

「2015年度規則適用上の解釈　の3. 「投球当時の解釈」 について(7.05g)」は、2015年の1年間を周知期間とし、2016年から新解釈が適用される予定です。**（詳細は2016年度のﾘﾄﾙｼﾆｱからの通達待ち）**

現行解釈：　投手が軸足を投手板上に位置したときである。(オン・ザ・ラバー)

**変更(案) ：　投手が打者への投球動作を起こしたときをいう。**

・ﾜｲﾝﾄﾞｱｯﾌﾟﾎﾟｼﾞｼｮﾝでは、投手が打者に向かつて投球に関連した自然の動作を始めたとき (すなわちﾜｲﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ又は投球動作の始まり)をいう。

・ｾｯﾄﾎﾟｼﾞｼｮﾝでは、投手が身体の前面で両手を合わせてｾｯﾄに入った後、投手が打者に向かつて投球に関連した自然の動作を始めたときをいう。

投手がﾌﾟﾚｰﾄに触れている間に進塁した走者は、投手が実際に投球動作を開始したときに踏んでいた塁を占有していたものとみなす。

投球動作は投手が打者に対し投球を始める動作をいう。

投手が投球動作を起こしていない場合でも、走者の進塁は可能で、投手が実際に打者への投球を開始したときに触れていた塁を占有していたとみなす。

投球に移る前の動作、いわゆる“ストレッチ"は投球動作の開始とはみなさない。

　参考までに：　プロ野球は従来からMLBの解釈で運用されています。

**ｱﾋﾟｰﾙﾌﾟﾚｲ**

ｱﾋﾟｰﾙﾌﾟﾚｲとは、守備側ﾁｰﾑが、攻撃側ﾁｰﾑの規則に反した行為を指摘して、審判員に対してｱｳﾄを主張し、その承認を求める行為である (2.02)。

**＜ｱﾋﾟｰﾙｱｳﾄ＞**

次の場合、守備側から審判員にｱﾋﾟｰﾙがあれば、攻撃側ﾌﾟﾚｲﾔｰはｱｳﾄになる。

・飛球が捕らえられた際に、走者の離塁が捕球時点よりも早かった（ﾀｯｸﾞｱｯﾌﾟが早かった）時に、野手

が走者の身体又は帰るべき塁に触球してｱﾋﾟｰﾙした場合。

　これは問題ないですね。

・走者が塁を空過し、野手が走者の身体又は踏み損ねた塁に触球してｱﾋﾟｰﾙした場合。

　ﾀｯｸﾞ（触球）が必要です。これも問題ないですね。

・1塁を駆け抜けた打者走者が、直ちに1塁に戻って来ないとき、野手が打者走者の身体又は1塁に触球してｱﾋﾟｰﾙした場合。

　ｼﾆｱではこのようなﾌﾟﾚｲは経験ないですが、1審は選手に直ちに1塁に戻るよう促してください。

・本塁に突入した走者が、触塁せずしかも触れ直そうともしていない時に、野手が走者の身体又は本塁に触球してｱﾋﾟｰﾙした場合。

走者にﾀｯｸﾞすれば勿論ｱｳﾄですが、この場合に限って本塁に触球してｱﾋﾟｰﾙｱｳﾄにすることができます。

・打順間違いにより、本来打席に立つべき者以外が打撃を行いその打席を終了した場合、守備側からｱﾋﾟｰﾙがあればその打撃結果によらず正式打順であった選手がｱｳﾄになる。

　2番打者の時に3番打者が間違って打席に入り、しかも2塁打を打ちました。直後（次のﾌﾟﾚｲが始まる前に）守備側からｱﾋﾟｰﾙがあれば、3番打者ではなく2番打者がｱｳﾄになり2塁打も取り消されます。そして、3番打者がもう一度打席入って再開となります。

第3ｱｳﾄがﾌｫｰｽｱｳﾄもしくは打者走者の1塁ｱｳﾄの場合は、先に他の走者が本塁を踏んでいても得点が成立しないのに対し、ｱﾋﾟｰﾙｱｳﾄの場合は、これより先に本塁を踏んでいる走者の得点は成立する。

★重要★：　ｱﾋﾟｰﾙﾌﾟﾚｲはｲﾝﾌﾟﾚｲ中に行うので、ﾌｫｰｽｱｳﾄ/1塁ｱｳﾄかそれ以外により得点の成立が変わります。つまり、**ﾀｲﾑﾌﾟﾚｲになる可能性**があります。

ｱﾋﾟｰﾙｱｳﾄ成立の時期は、審判員へのｱﾋﾟｰﾙが完了したときや審判員がｱｳﾄを宣告したときではなく、走者又は塁へ触球したときである。

**＜ｱﾋﾟｰﾙの方法＞**

ｱﾋﾟｰﾙは**ﾎﾞｰﾙｲﾝﾌﾟﾚｲ中で、且つ次のﾌﾟﾚｲを行う前までに**行わなければならない。

ﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞ中のﾌﾟﾚｲに対するｱﾋﾟｰﾙは、次に球審がﾌﾟﾚｲを宣告した直後に行わなければならない。

投手が打者に対して次の1球を投げたり、投手を含めた全ての野手がｱﾋﾟｰﾙとは関係ないﾌﾟﾚｲ（牽制球などのｱﾋﾟｰﾙと関係ない塁への送球、当該塁への悪送球、ﾎﾞｰｸなど）を行ったりすると、ｱﾋﾟｰﾙ権が消滅する。ただし、複数の塁でｱﾋﾟｰﾙすべきﾌﾟﾚｲがあったときに、他の塁でのｱﾋﾟｰﾙﾌﾟﾚｲは、他のｱﾋﾟｰﾙ権の消滅にはならない。

審判員がｱﾋﾟｰﾙを受付け、ｱﾋﾟｰﾙ内容を支持する場合にはｱｳﾄ、支持しない場合にはｾｰﾌの宣告をする。ﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞ中にｱﾋﾟｰﾙがあった場合には、ﾎﾞｰﾙﾃﾞｯﾄﾞ中である旨を野手に伝え、ｱﾋﾟｰﾙを受付けてはならない。

1つの塁を複数の走者が通過した場合は、どの走者が塁を踏まなかったかを審判員に明示しなければならない（審判員もどの走者についてのｱﾋﾟｰﾙか尋ねる必要がある）が、仮に間違えてｱﾋﾟｰﾙしてしまった場合でも、その塁を通過した走者の数まではｱﾋﾟｰﾙを繰り返すことができる。

**＜第3ｱｳﾄの置換え＞**

ﾌｫｰｽｱｳﾄでない第3ｱｳﾄが成立しても、それ以外に有利なｱﾋﾟｰﾙﾌﾟﾚｲが残っている場合、守備側は第3ｱｳﾄ成立後であってもｱﾋﾟｰﾙﾌﾟﾚｲを行うことができる。このｱﾋﾟｰﾙが認められ、審判員がｱｳﾄを宣告した場合、このｱｳﾄはすでに成立した第3ｱｳﾄと置換えることができる。

**★重要★**：ｲﾆﾝｸﾞ終了時におけるｱﾋﾟｰﾙは、**投手及び内野手全員**がﾌｪｱ地域を離れるとｱﾋﾟｰﾙ権が消滅する。

外野手にはｱﾋﾟｰﾙ権はない！

記録上、第3ｱｳﾄ後のｱﾋﾟｰﾙｱｳﾄは第4ｱｳﾄとするのではなく、既にｱｳﾄとなった第3ｱｳﾄの記録を取消して、ｱﾋﾟｰﾙｱｳﾄを第3ｱｳﾄとして記録することになる。これを、「第3ｱｳﾄの置換え」という。

余談：　正確には「第4ｱｳﾄの第3ｱｳﾄ**へ**の置換え」である。　野球規則には「第4ｱｳﾄ」の用語が採用されていないが、MLBの"Official Baseball Rules" には「fourth out」の記載があります。

＝例＝

第3ｱｳﾄを置換えた方が守備側に有利となる場合とは、次のような場合である。

・得点している走者が塁を空過している場合：　その走者の得点は認められない。

・走者のﾌｫｰｽｱｳﾄ又は打者走者が1塁に達する前のｱｳﾄが第3ｱｳﾄにあたる場合：

同じﾌﾟﾚｲ中にこのﾌｫｰｽｱｳﾄよりも先に走者が本塁を踏んでいても、得点は記録されない。

・前位の走者が塁を空過していたことによるｱﾋﾟｰﾙｱｳﾄが第3ｱｳﾄにあたる場合：

それより後位の走者は、ｱﾋﾟｰﾙﾌﾟﾚｲが行われる前に本塁を踏んでいても、得点は記録されない。

例えば、2死1・2塁で打者が2塁打を打ち、2走が本塁通過後、返球を受けた捕手が1走に本塁手前で触球し3死となった。しかし守備側が、2走の3塁空過に気づいていた場合、第3ｱｳﾄ成立後であっても3塁に送球しｱﾋﾟｰﾙすれば、2走を3塁でｱｳﾄにすることができる。この場合、ｱﾋﾟｰﾙがなければ得点1だが、ｱﾋﾟｰﾙした場合は得点していた2走が3塁でｱｳﾄになったので得点0となる。また、2走は3塁でﾌｫｰｽｱｳﾄであるので、打者の2塁打が取消され、打数のみが記録される。

引用：　https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%94%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%A4